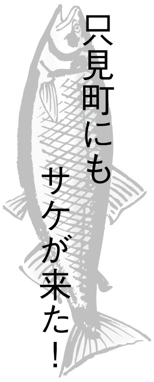
町史 とっておきの話 214

只見とっておきの魚たち④



只見町にもサケが来た！

南相馬市博物館学芸員 稲葉 修

「只見町の川は海とつながっていた」こう言ったら、びっくりしますか。実は、下流にダムがなかった昭和初期まで、只見川や伊南川は日本海とつながっていて海との関わりをもつ魚たちがみられたのです。それらは、①川で生まれて少し生活してから海に降りて成長し、産卵のため川を遡上するサクラマスやサケ、②海で生まれてから川に遡上し成長、産卵のため再び海に下るウナギ、③川で生まれすぐ海に下り、少ししてから成長のために川を遡上して産卵するアユなどです。こういった魚たちは会津盆地を流れる大川流域の会津若松市や喜多方市などでも以前はみられたそうです。しかし、現在では新潟県阿賀町の揚川ダムで遡上が止まっています。今回は、只見町の人々の生活に関わりが深かったサクラマス（マス）とサケについてご紹介しましょう。

サケ科の魚、サクラマスは、孵化した後、一年間を川で過ごし、主にメスが集団で海に降り約一年の海中生活をします。一方、川に残ったオスの多くはヤマメとして一生を淡水で過ごします。そして秋の産卵期、海から遡上したサクラマス（メス）とヤマメ（オス）はつがいになって産卵します。つまり、サクラマスとヤマメは同じ種類の魚なのです。サクラマスが多いのは海水温が低い北海道や東北、北陸です。海水温が高めの関東地方以西では、メスもオスも一生を川で暮らすヤマメとして川の上流で生活しています。ただし、ダムが建設されると、ダム湖を海代わりにしてサクラマス化する個体がいて、田子倉湖でサクラマスといわれる魚がこれに当たります。ダムのなかった時代、日本海から遡上したサクラマスは、只見川では新潟県旧湯之谷村銀山平、伊南川（檜枝岐川）では旧伊南村大桃の鱒滝（増水時、もっと上流まで遡上していたそうです）、舘岩川では鱒沢川という支流あたりまでは遡上していたようです。日本海から只見町まで180km以上の距離がありますが、本当に長い旅をしてきた魚ですね。かつてサクラマスを捕獲していたという町内の方々にお聞きすると、その大きさは全長50から60cmほどだったとのことですが、時には75cmにも達する個体が捕獲されたこともあるそうです。捕獲は村人が共同で行い、流域の人々の大切な食料になったようです。

もう一種類、海から只見町にやってきた大きな魚にサケがいます。荒島付近の伊南川では、サクラマス20から30個体に1個体の割合でサケが混じっていたそうです。また、大桃の鱒滝でもサケが捕獲されることがあったようです。旧舘岩村では、戦前は、たのせ地区までは年に数個体の遡上がみられたと聞きました。只見川の岸辺に立っていると、サクラマスやサケが遡上していた当時の川の様子がよみがえってくるようです。

田子倉湖でサクラマス化した個体（雄）
（1998年7月14日捕獲、全長67cm、重さ5.3kg）